

奈良県三郷町の都市化

北 畠 潤 一

I はじめに

奈良県三郷町では、過去30年間に急速な住宅地開発が進展した。それはこの町が奈良盆地と大阪平野を結ぶ交通の要衝に位置するために、高度成長期の大阪における都市的膨張の影響を受けて都市化した結果である。都市化とは都市地域の形成過程である。本研究では都市化の概念を次の2つの側面から規定する。1つは「村落的地域が都市的地域に変化する過程」である。他は「村落のまたは都市的地域が、空間的に拡大して都市的要素を増大する過程」である。前者は周辺地域から都市への買物・通勤・通学者などが増加し、周辺村落の生活圏が拡大する量的変化の過程であり、後者は量的変化が生活圏内の村落構造や機能、土地利用や景観、生活様式や共同体組織など、質的变化に転化する過程である。そして、両者は補完関係にあり、都市化の地域的展開が生起する。

近年、都市化の地理学的研究は多い。本研究に直接関係する論文は次のとおりである。西脇（1975）は高度経済成長期の千葉県浦安町の都市化による人口増加と都市的土地利用の出現を分析し、脇田（1977）は地価勾配研究の展望と問題点を指摘した。北畠（1981・1984）は奈良盆地の北西部丘陵地と大阪平野の北部丘陵地の住宅地化を調査し、適地選定の重要な条件は利便性と日向斜面であるとした。また、北畠（1985a）は第2次世界大戦後の奈良盆地の都市の変容と機能地域の形成を論じ、北畠（1985b）は奈良盆地の高度成長期以降の機能地域再編成を解明した。生井ほか（1986）は都市化が横浜市で鴨居・東本郷・小机などの地区の農業に与えた影響を分析し、北畠（1986）は奈良県田原本町の自然条件と住宅地化、人口増加と住宅地化を追究した。Harper（1987・1989）はイギリスの都市近郊農村住民の住宅所有・居住年数・移動理由などから、住民の社会経済的特性をとらえ、都市化による近郊村落社会の変化の類型化をした。澤（1990）は広島市安佐南区の近郊農村への人口流入による、都市的土地利用の拡大過程を調査し、古田（1990）は都市化で発生した、近郊農村の新旧住民の混住化と地域社会の変化を分析した。森川（1991）は中心機能従業者の規模と通勤圏の調査から、日本の都市化と都市システム構造の変化を解明した。北畠（1993）は奈良県三郷町の住宅地化の過程と土地分類の関係を究明した。以上の論文は都市化について、人口・土地利用・地価・利便性・地形・機能・住民・都市システム・土地分類などを指標として接近したものである。しかし、傾斜地に立地する近郊小都市の都市化を中心課題とした地理学的研究はない。そこに本研究の意義

があると考ええる。

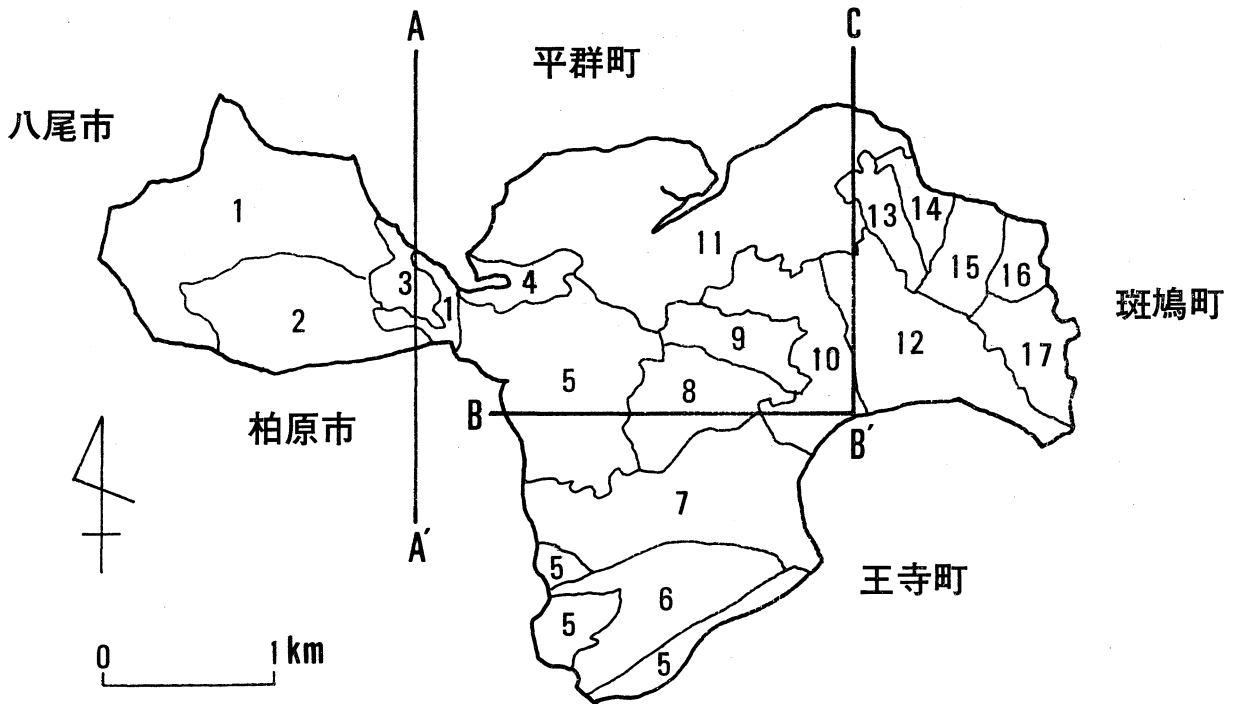
本研究の目的・対象・方法は次のとおりである。研究目的は大阪東郊に位置し、近年、急速な住宅地化による都市化をみた、奈良県生駒郡三郷町（以下、三郷町）を研究対象地域とし、町域内（図1）の都市化現象を地形に即して垂直的・水平的分布の視点から地域別に調査・分析し、大都市近郊の傾斜地の小都市に展開した、都市化の地域的特性の一端を究明した。研究方法は三郷町『三郷町都市計画図』（1993年1月作成）1万分の1「全図」、および、三郷町『三郷町全図』（1987年12月作成）2,500分の1「1～4」を使用して読図・計測をした。次に地形的多様性に富む三郷町の自然景観と文化景観にみられる都市化現象を、西部・中部北・中部南・東部の4つの地域別に観察・調査し、近接性・利便性・地価、および奈良盆地や郡部の動向なども考え合わせ、景観学的視座から三郷町の都市化の地域的特性を解明した。

II 都市化の地域的展開

三郷町の都市化は地形の影響を強く受けている。たとえば山地・丘陵地の急斜面、地すべり滑落崖、段丘崖・沖積錐・崖錐、および日陰斜面などは都市化しないか、その都市化は緩慢である。しかし高燥で地形改変が容易な上位・中位・下位砂礫台地、山麓緩傾斜地・丘陵地などの日向緩斜面では、急速な都市化が進行している。それは生活空間がもつ近接性・利便性・快適性と都市施設・サービス機能などと相互に関連を保ちながら変貌し、都市的地域を形成する過程でもある。さて、地域別にみた三郷町の都市化景観は次のとおりである。

- (1) 総面積 862.0 ha, 逆三角形のキノコ形である。広がり東西 5.67 km, 南北 3.50km であり、相対位置は奈良へ 25.0km, 大阪へは 34.0 km である。時間距離は JR 西日本大和路線の三郷線から、奈良駅へ24分、天王寺駅へは27分間である。また、三郷町域内を走る近鉄生駒線の勢野北口駅・信貴山下駅より、大阪の難波駅へは1時間、奈良駅へは40分間である（1992年7月、王寺駅調べ）。さらに、行政区をみれば、三郷町域の北側は奈良県生駒郡平群町、東側は斑鳩町、南側は大和川を隔てて北葛城郡王寺町、西側は生駒山地を境界にして、大阪府八尾市と柏原市に隣接している。北島潤一「奈良県三郷町の住宅地化」（『産業と経済』第7巻第5号、1993年3月）61ページ。
- (2) cultural landscape 自然景観の対語であり、自然景観に人間の影響力が決定的に及んだ景観のことである。それゆえに文化景観においては人間に由来する複合体が景観の構造を規定している。
- (3) landscape study 地理学の主要な研究対象は景観であるとする立場である。すなわち、景観は具体的・客観的に把握されやすく、観察・調査の結果を地図化によって、景観の構成要素を分析し、形態や発達過程を比較できるなどの利点を有する。特に農村的地域の都市化現象に接近するためには、最も適切な方法論的立場である。日本地誌研究所『地理学辞典』二宮書店、1974年、190～191ページ。
- (4) alluvial cone 扇状地のうち、扇状地面の傾斜が大なるものである。しかし傾斜の程度の基準はなく、沖積扇といわれる緩傾斜の扇状地面をもつものよりは急であり、崖錐よりは緩やかな傾斜をもつものを指す。沖積錐は比較的水量の少ない河川が粗大な岩屑を運ぶ場合につくられ、源頭部に崩壊地を有する1次谷の出口などにみられることが多い。町田 貞ほか『地形学辞典』二宮書店、1981年、410ページ。
- (5) talus cone 急崖あるいは自由面（free face）から風化生産された岩屑がその基部に堆積してつくった円錐状の堆積地形。同時に岩屑斜面の一種をなす岩錐斜面（talus slope）を構成する。岩錐斜面の傾斜角は30～40°と急である。町田 貞ほか『地形学辞典』二宮書店、1981年、60ページ。

図1 研究対象地域



注) 1.南畑 2.信貴南畑 3.信貴山西 4.信貴山東 5.立野 6.立野南 7.立野北 8.城山台
9.信貴ヶ丘 10.勢野西 11.勢野 12.勢野東 13.美松ヶ丘西 14.美松ヶ丘東 15.東信貴ヶ丘
16.夕陽ヶ丘 17.三室

A—A' は西部地域の東限 B—B' は中部北地域の南限・中部南地域の北限

C—B' は东部地域の西限

資料) 三郷町観光産業課『三郷町住居表示全図』(1993年度) 5千分の1「全体図」および現地調査により作成。

1 西部地域

西部地域は大門池(図2)の中央から、とっくり湖(図2)東端付近を通る南北線(図1・A—A')以西の地域である。行政区は南畑・信貴南畑・信貴山西の3地区が接続している。西部地域は生駒山地の南東端であり、全体としては北西より南東方向に傾斜し、傾斜区分は16~20°と21~30°の地域からなる(図2)。標高は260.0~480.0mに及び、その間に小起伏山地と小起伏面、および樹枝状の細長い谷底平野が発達している。面積は全町域面積の約20%を占めるが、1993年5月1日現在の人口は2%、世帯数は3%程に過ぎない(三郷町地区別人口統計表より試算)。それはこの地域が山地性の地形であり、都市化が緩慢なためである。

西部地域最西縁の標高343.0~396.7mの位置に高安山公園墓地と高安山霊園がある。西部地域の最高地点は標高488.0mの高安山の南斜面の大阪府八尾市(以下、八尾市)・奈良県生駒郡平群町(以下、平群町)・三郷町の接点(標高482.0m)で、混交樹林の一角である。

(6) ソヨゴ・アラカシ・ヤブツバキなどの常緑広葉樹、リュウブ・アカメガシワ・タカノツメ・クスギ・コナラなどの落葉広葉樹、そしてアカマツの2次林と一部には、タケ・ヒノキ・スギ・クリなどの

最低地点はとっくり湖（水面標高 262.5 m）であり、この湖は^{みもりがわ}実盛川上流に、国・県・町の三者が1971～1973年度に築造した上水道水源池で、堤長 98 m、堤高 30 m の直線重力式コンクリートダム、貯水流域 1.18 km²、有効貯水量30万 m³ である。湖上に朱色のとっくり吊橋（幅 1 m、長さ 100 m、鉄製）がかかり、湖の周囲は混交樹の水源保安林である。この付近は山菜が豊富であり、キジ・ヤマドリ・ウグイス・カイツブリほか、数多くの野鳥も棲息している。国土庁によれば、まだ都市化していないとっくり吊橋の北 100 m、近鉄生駒線信貴山下駅（以下、信貴山下駅）西方 3,400 m の市街化調整区域にある、南畑幼稚園付近（旧三郷町大字南畑字赤阪1,104番）のタケ林・混交樹林で、北へ 4 m で町道に面し、上下水道・都市ガスはない場所（図 3）の1984年度の地価は 1 m² 当たり4,170円、翌1985年度の地価は4,200円で比較的廉価である（1984・1985年度地価公示）。また、とっくり湖岸を巡るサクラ並木の道路は幅員 4 m 程で、老人用散歩道である。南西の湖岸に近い丘陵地の標高 280.0 m の位置には、1975年度に新築移転された広域⁽⁷⁾7か町組合立の養護老人ホーム三室園^{みむろえん}（定員 100 名）と、1984年度に併設された特別養護老人ホーム三室園（定員50名）が立地している。

大門池西岸から北西方向に長さ 300 m 程の細長い谷底平野があり、信貴山断食道場を経て弁財天滝に通じている。大門池南岸には開運橋南西詰めから西に向けて、信貴山朝護孫子寺毘沙門天（以下、信貴山）の門前町が発達し、20軒近くの料理旅館・観光ホテル・食堂・土産物屋などが立ち並ぶ。大門池南岸の標高 288.5 m 地点を西走する有料道路信貴・生駒スカイラインは、高安山南斜面では標高 399.5 m の地域を通過し、さらに尾根づたいに高安山・十三峠・鳴川峠ほかを経て生駒山に至る。信貴・生駒スカイラインの 500 m 南には、長さ 1,200～1,300 m、幅 50 m 程の東西方向の谷底平野がのびている。この谷底平野の北側の日向緩斜面に南畑の路村集落が立地している。また、その谷底平野に南北方向から入る、長さ 300 m 程の侵食谷が10か所前後刻まれており、侵食谷の谷頭部に水面面積 400 m² 未満の小さい灌漑用堰止池を築き、標高 150.2～200.8 m、平均勾配 10～13° の部分には棚田や普通畑が拓かれている。そして、とっくり湖西方には長さ 700～800 m、幅 50～110 m の谷底平野が数か所ある。この谷底平野も平均勾配 10～13° の部分には棚田や普通畑がある。さらに、その谷底平野西部の標高 262.5～346.2 m、平均勾配 10～13° の部分には、1987年度着工の農業公園「信貴山のどか村（38 ha）」があり、ショウブ園・花壇・花卉温室・食堂・即売場ほかの施設ができてい

る。⁽⁸⁾西部地域の尾根の大部分は混交樹林であるが、一部は庭園用樹木畑になっている。勾配 20

＼経済林が混在する。

(7) 1970年度に平群町・三郷町・北葛城郡の王寺町・上牧町・河合町、生駒郡の斑鳩町・安堵町（当時は安堵村）など、連接する7町域によって、王寺周辺広域圏が設定された。その結果、この7町域の協力により、集落配置・交通通信・生活環境・教育文化・社会福祉・公害・防災などの諸施設と広域行政を有効に整備・処理することになった。

(8) ツゲ・カナメ・ウメ・マキ・クロマツ・サルスベリなどが栽培されている。

～25°の傾斜地は、谷と尾根を問わず日向斜面のブドウ栽培が盛んであるが、わずかにミカン畑もみられる。勾配25～30°の段丘崖・崖錐の日向斜面には、地すべりや崩壊の防止と、タケノコや用材取得のために植えられた古いタケ林が卓越する。以上のように、西部地域は町域内で最も標高が高く、鉄道線からも離れており、近接性・利便性に乏しいが、小起伏山地・小起伏面・谷底平野などの地形条件と標高・勾配・日照・水利などの諸条件に適した土地利用がなされ、混交樹の2次林・経済林、そして棚田・普通畑・果樹園、門前町・路村・農業公園・水源池、老人ホーム、有料道路などが周囲の混交樹林と調和して、伝統的山村集落景観を保存し、他方では近年の都市化による文化景観を保持しており、新しい地域秩序形成の試みが認められる⁽⁹⁾。

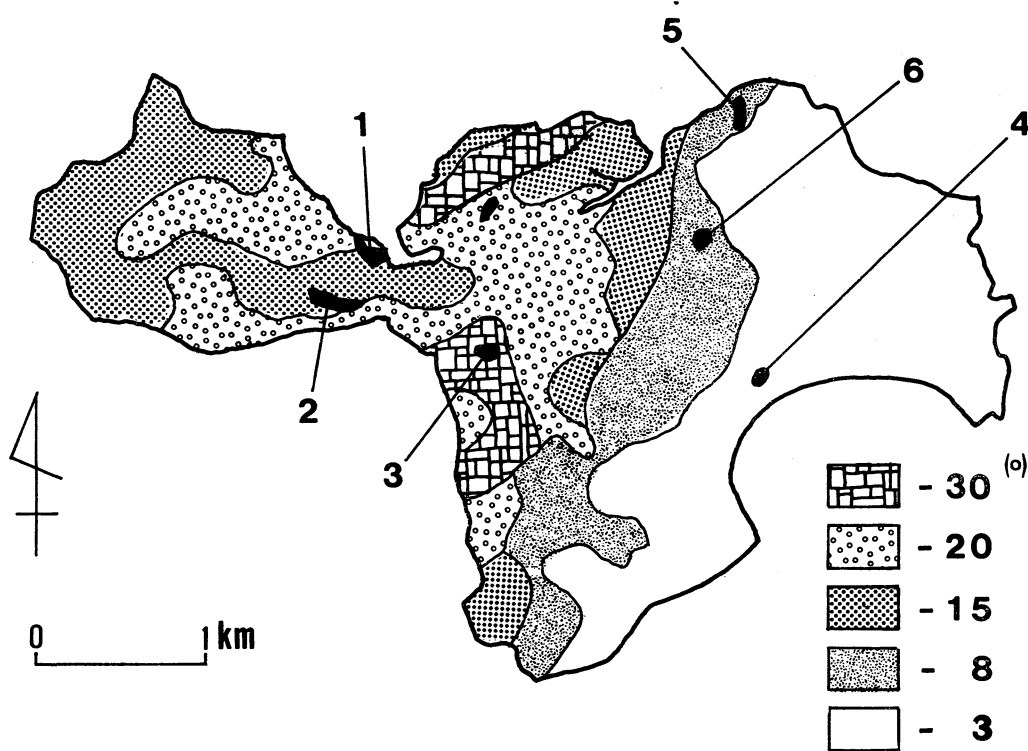
2 中部北地域

中部北地域は西部地域の東に隣接し、町域中部の北半分を占める地域である(図1)。東限は今池と大和川右岸のスポーツセンター(図2)を結ぶ南北線(図1・B'—C)、南限は亀池(図2)南方約200m地点を通る東西線(図1・B—B')、西限は大門池のほぼ中央から、とっくりに湖東端を通る南北線(図1・A—A')の範囲である。行政区は勢野・信貴山東・立野などの北半分と、美松ヶ丘2丁目・勢野東3丁目・城山谷1・2・3・5丁目、信貴ヶ丘・勢野西1・2・3・4・5丁目などの全部、または一部が接続する地域である。地形区分は西半分が生駒山地に属する小起伏山地と小起伏面、中央は丘陵地、北東部は中位砂礫台地、南東部は丘陵地と谷底平野である。また、東縁は下位・中位砂礫台地と生駒谷の谷底平野の一部で、谷底平野と下位・中位砂礫台地の間は段丘崖、南東部の丘陵地と谷底平野の間には、南北400m、東西100m程の規模で菱形の沖積錐・崖錐が発達している。傾斜区分は全体として多様性に富み、北部と南部は平均勾配21～30°で比較的傾斜が大きい。しかし中部は平均勾配16～20°で、東へ行くと緩やかになり、平均勾配9～15°、4～8°、0～3°と漸移する(図2)。面積は全町域面積の約35%である。しかし1993年5月1日現在、この地域の人口は全人口の15%、世帯数は全世帯数の16%程である(三郷町地区別人口統計表より試算)。したがって面積に比較して人口・世帯数の割合が少ない。その理由は、この地域の面積の4分の1に住宅地化・市街地化が認められるが、残る4分の3は第1次産業的土地利用の卓越地域であることである。

中部北地域の最高地点は標高309.3mで、北西部の平群町との境界線上にある。最低地点は南東部の大和川右岸(勢野西1丁目)のスポーツセンター敷地内(標高35.8m)にあり、その間の平均勾配は6.5°である。大門池には2つの橋があり、朱色の橋は開運橋、薄桃色の橋は信貴大橋(標高280.7m)である。信貴大橋の下のダムの東端から流出した水は約300m南

(9) regional order 地表面は雑多な個別現象の単なる偶然的集合ではなく、複雑多岐にわたる地表面上の現象間にも、なんらかの秩序がある。このような地表面空間の秩序のことである。特に集落居住形態を分類する文化景観の類型区分と、その形成要因を追求する場合には主要な概念となる。地域秩序と土地利用は関係があり、集落・交通・水経済・耕地・林業地・防災・都市化などと深くかかわっている。日本地誌研究所『地理学辞典』二宮書店、1974年、459～460ページ。

図2 三郷町の傾斜区分



注) 1.大門池 2.とっくり湖 3.亀池 4.スポーツセンター 5.今池 6.矢倉谷池

資料) 国土庁『土地分類基本調査図』(1982年度) 5万分の1「奈良」「大阪東北部」「大阪東南部」および現地調査により作成。

流し、とっくり湖から東流する実盛川と合流して、一度は亀池に入り、さらに南流して大和川に至る。亀池北東 150 m には上水道接合井 (標高 222.5 m)、その東 400 m には上水道高区配水場 (標高 160.5 m) が設置されている。中部北地域の西寄りには、猪上神社・仁王門を経て信貴山に通じる信貴山参道があり、沿道は料理旅館・食堂・ホテルほかよりなる信貴山東地区 (図1) の門前町である。そして、その東部に国民宿舎信貴山荘と信貴山東町自治会館が建設されている。1986年4月に開校された奈良県立信貴ヶ丘高校 (以下、信貴ヶ丘高校) は、信貴山東町自治会館から東南東 700 m に位置し、その間は東信貴山ケーブル跡地の上半分で、西高東低の比高 123 m の直線状坂道になり、混交樹林を通る幅員 10 m 余、平均勾配 10° の信竜ハイキングコースである。とっくりダム北側に揚排水ポンプ場 (標高 238.2 m)、さらに東へ 100 m の大阪府柏原市 (以下、柏原市) との境界線付近には、南畑地区し尿処理場 (標高約 250 m) がある。信貴川上流の大池は水面標高 204.5 m の灌漑用堰止池である。大池の東方 100~200 m の標高 203.1 m の場所には、1973年度に完成した清掃センター (20 t/8 h) が設置されている。

中部北地域東部の北半分は、第1次産業的土地利用が卓越する地域である。信貴川上流域の西高東低の細長い谷底平野の標高 90.0~131.0 m の地域には、100枚前後の極小刻みな棚田が

奈良県三郷町の都市化

続いている。信貴川中流域の谷底平野（標高 72.0～91.0 m）と、矢倉谷池（図 2）から南流する矢倉谷川流域の谷底平野（標高 46.0～90.1 m）も水田が連なっている。しかし、これらの水田地域以北の中位砂礫台地・丘陵地の日向斜面の標高 66.1～120.8 m の位置は、今池（図 2）の周囲を中心にしてブドウ園が広がっている。町立三郷北小学校の南 200 m（美松ヶ丘 2 丁目）には、1982年度に開園した「ふれあい農園」（標高 85.1 m）があり、近所の住民が野菜や花卉⁽¹⁰⁾を栽培している。また、そのすぐ西を流れる信貴川と矢倉谷川間の下位砂礫台地・丘陵地の標高 76.0～81.5 m の部分では、大型ビニールハウスによってナス・イチゴなどの施設園芸農業が行われている。概して下位・中位砂礫台地・丘陵地の尾根は混交樹林が卓越するが、日向緩斜面には普通畑、段丘崖の急傾斜地にはタケ林、日陰斜面には階段状の墓地が見受けられる。

三郷町都市計画図（1993年 1 月作成）によれば、中部北地域の南半分の地域のうち、信貴山下駅周辺の近隣商業地域と、都市計画道路城山線以南の住居地域を除く地域の殆どは、第 1 種住居専用地域である。この地域の中心には、1962年度に完成した信貴ヶ丘団地（面積 16.0 ha、計画戸数 600 戸）があり、この団地は町域内で最初に開発されたものである。信貴山下駅から西北西方向に 900 m 余の間は、幅員 16 m の西高東低の直線状坂道であるが、これはかつての東信貴山ケーブル路線の下半分であって、標高 43.4～137.3 m に及び、平均勾配 6° の舗装道路となり、東部 450 m には中央分離帯、道路南側には歩道、北側の西部 350 m 間には歩道と街路樹がある。信貴ヶ丘団地はこの道路北側の中位砂礫台地・丘陵地の日向緩斜面の標高 67.5～107.7 m の部分に開発された 1 戸建住宅地である。信貴ヶ丘団地西側の信貴ヶ丘高校の北には、信貴ヶ丘浄水場・信貴山看護専門学校（標高 120.2 m）・信貴山病院（標高 110.5 m）などがある。そして信貴山病院の西、矢倉谷池の南の勢野西 4・5 丁目には、1969年度に完成した緑ヶ丘団地（面積 7.0 ha、計画戸数 100 戸）がある。この団地は中位砂礫台地の標高 76.0～107.0 m に立地し、第 1 種住居専用地域の 1 戸建住宅地である。国土庁によれば、信貴山下駅北北西 1,100 m の勢野西 5 丁目 10 番 6 号（図 3）の地所は、上水道と都市ガス施設があり、下水道はなく、都市化の緩慢な場所であるが、標準地の地積 165 m²、道路状況は西方 4,700 m で町道に達するもので、1984年度の 1 m² 当たりの地価は 90,000 円であったが、1993年 5 月 1 日の地価は 122,000 円となり、10年程の間に 32,000 円（26.2%）騰貴した（1984・1993年度地価公示）。

緑ヶ丘団地の北側の勢野地区（標高 75.0～218.9 m）には、生駒山麓を通る幅員 12 m の都市計画道路矢倉谷線と信貴山麓線沿線の第 1 種住居専用地域内に、1990年度より勢野北部土地地区画整理組合によって、1995年度の完成を目指す大規模開発が進行中である。それは小起伏

(10) シソ・サトイモ・キュウリ・ナス・サツマイモ・トマト・トウモロコシ・チジャ・ネギ・スイカ・ニンジン・ピーマン・ヒョウタン、そして、キク・ウランマソウ・ダリヤ・ユリほか（1993年 7 月 26 日調べ）。

山地の混交樹林と金指池の東西にのびる棚田を平坦化し、階段状に造成するもので、最大幅は東西 1,400 m、南北 600 m に及び、面積 37.5 ha、計画戸数836戸である。これが完成すれば町域内で最も標高の高い地域に立地する住宅地となる。緑ヶ丘団地東方の勢野東3丁目、矢倉谷川右岸の丘陵地・沖積錐には、日陰斜面を中心にして草地・タケ林・墓地・混交樹林が見受けられるが、その東向傾斜地には普通畑が拓かれ、一部に庭園用樹木畑もある。丘陵地・沖積錐と矢倉谷川流域の谷底平野間の傾斜変換線⁽¹¹⁾には、神社・寺院が並び、勢野西3丁目の標高 50.7 m 地点には県水三郷ポンプ場がある。信貴ヶ丘高校南隣りの標高 134 m 程の位置に万葉荘園⁽¹²⁾、さらにその東には日養谷上池（水面標高 100 m）・日養谷下池（水面標高 86 m）があり、これらの池の西側を城山台 2 丁目から北上する都市計画道路信貴山麓線⁽¹³⁾が通っている。万葉荘園前の信貴山麓線の西方には、この道路をつけるために尾根を開削した、比高 20 m 前後の急崖が残り、その部分は南北 100 m 余の間、地すべり・滑落防止のコンクリートブロック被覆が大規模に施されている。

東信貴山ケーブル跡地の下半分の道路南側は、1979年度に完成した城山台 1・2・3・4 丁目の北部に当たる。この地域は第 1 種住居専用地域で、城山台 2 丁目と 1・3 丁目の境界線となっている道路も、幅員 10 m の街路樹と歩道をもつ舗装道路である。国土庁によれば、信貴山下駅西方 600 m の上下水道・都市ガスが完備し、著しく都市化して整然と区画され、北 6 m に町道があり、標準地の地積が 177 m² の城山台 1 丁目 8 番 12 号（図 3）の 1984 年度の地価は、1 m² 当たり 92,600 円であったが、1993 年 5 月 1 日には 153,000 円になり、60,400（39.5%）高騰した（1984・1993 年度地価公示）。また、この付近には大小 4 つの公園と 1 つの墓地があり、標高 101.8 m 地点に上水道中継配水場、やや下って標高 43.9~65.8 m の位置には町立三郷小学校・近鉄王寺変電所・信貴山下駅などが立地している。生駒谷の標高 40 m 前後の谷底平野を、弧線を描いて通る近鉄生駒線の東側は水田（休耕田を含む）・普通畑が卓越する。そして、その農耕地の中を県道王寺・三郷・斑鳩線が通り、沿道に勢野簡易郵便局がある。県道と大和川の間、標高 35.8~40.3 m の谷底平野には、1985~1991 年頃に次々と完成した保健センター・老人福祉センター・コミュニティーセンター・スポーツセンター・ウォーターパーク⁽¹⁴⁾・銀行、そして街路樹・記念建造物など、保健・福祉・文化・体育・金融等

(11) 北から南に向かって、福蔵院・秋留八幡神社・遍照院・八幡神社などがある。

(12) 1982 年 4 月に完成した社会福祉法人で、精神薄弱者（心身傷害者も含む）の厚生援護施設である。奈良県社会福祉事務所の管轄、定員 50 名である（1993 年 8 月、三郷町民生部住民福祉課で聴取）。

(13) 三郷駅前より北上し、農住団地・城山台団地を通過して、信貴ヶ丘高校前から北東に転じ、平群町へと続く幅員 16 m、歩道と街路樹をもつ舗装道路。北部山麓は未完成であるが、県道信貴山線との交差点までの約 2,100 m はバス路線であり、重要な計画幹線道路である（三郷町都市計画図、1993 年 1 月作成）。

(14) 1989 年度に創設された「ふるさと創生事業資金」により、同年、温泉掘削に着手し、1990 年 5 月 7 日に成功した。地下 650.8 m、泉温 30.3℃、湧出量 102t/1 日である。1991 年度完成。1993 年 8 月 26 日 14 時（晴天・気温 32℃）の来場者数は子供 46 名、付添いなどの大人 21 名であった。

奈良県三郷町の都市化

のコミュニティ活動・サービス諸施設が立地し、加えて、中部南地域に属する隣接地には三郷町役場・西和農協などがあるが、行政・公共・サービス施設が集積し、都市的に整備された200 m×300 m 程の地域が形成されている。

3 中部南地域

中部南地域は中部北地域の南に隣接する地域である。すなわち、亀池南方約 200 m 地点より、大和川右岸の三郷町役場を見通す東西線（図1・B—B'）以南の地域である。行政区は立野の南部、城山台1・2・3・4丁目の南部、立野西1丁目、立野北1・2・3丁目、立野南1・2・3丁目などが接続し、西は柏原市、南と東は大和川を隔てて北葛城郡王寺町（以下、王寺町）に接している。地形区分を見れば、西部は柏原市との境界線に沿って、生駒山地に属する小起伏山地・小起伏面、および丘陵地・山麓緩斜面であり、丘陵地の一部には実盛川の細長い谷底平野がのびている。南西部は下位・上位砂礫台地で、2つの砂礫台地の間には段丘崖が発達している。北部は小起伏山地・山麓緩斜面・中位砂礫台地そして段丘崖である。東と南は大和川右岸の谷底平野であるが、中部南地域の中央は大部分が中位砂礫台地であり、その台地の南・東縁の傾斜変換線付近を段丘崖が縁どっている。また、東部は中位砂礫台地を東流し、多聞橋（図3）の下流 100 m 地点で大和川に合流する坂根川と谷田川が細い谷底平野を刻む。傾斜区分は北西部が勾配 21~30° と大きく、南東部は勾配 0~3° と小さい。その間に勾配 9~15° の比較的緩やかな漸移地域がある（図2）。

中部南地域の面積は全町域面積の約25%であり、1993年5月1日現在の人口は全人口の約45%、世帯数は41%程である（三郷町地区別人口統計表より試算）。すなわち、中部南地域は面積に対して人口・世帯数の割合が多い。その理由は、この地域の北西部の一角のみに山地性の地形があり、それを除けば大半は傾斜勾配 0~8° の日向緩斜面と、人工的地形改変が容易な砂礫台地・丘陵地、および谷底平野であること。そして1979年度に設置された、JR西日本大和路線三郷駅（以下、三郷駅）と、翌1980年度の奈良交通バスターミナルと立体駐輪場の開設。さらに信貴山麓線・竜田線・三郷川添線・関屋川線などの都市計画道路の整備。加えて、1984年度の奈良産業大学の開学など、自然的・社会的な都市化条件に恵まれて、住宅地化・市街地開発が急進したことによると考える。

中部南地域の北西部は、標高 220 m 前後の小起伏山地であり、一部にヒノキの経済林を含む混交樹林がある。しかし東山麓の段丘崖下を南流する実盛川の谷底平野と、北西山麓部の谷底平野には、極めて小刻みな棚田がみられ、谷頭部の日向緩斜面の標高 188.0~206.2 m の地域にはブドウ園が拓けている。また、実盛川の谷口付近にあたる南東山麓の日向緩斜面の標高 78.4~85.2 m の地域にも、ブドウ栽培と普通畑が見受けられる。小起伏山地南麓の府道本堂・高井田線に沿う日向緩斜面（標高 116.0~151.8 m）には、駐車場、クリ・ブドウ・ミカン・ウメなどの栽培と、庭園用樹木畑・普通畑がある。奈良産業大学は中部南地域の西部に位置し、⁽¹⁵⁾府道本堂・高井田線の南、都市計画道路竜田線の西側の北高南低の緩やかな丘陵地に立地して

いる。大学用地は標高 96.8~118.7 m に位置しており、最大幅は南北 450 m、東西 400 m 程であるが、現在のキャンパス面積は約 105,000 m² である。

中部南地域の南西部は丘陵地・下位砂礫台地と、その間に発達した段丘崖からなり、急傾斜地(標高 71.0~122.3 m)を階級状に地形改変して、竜の子霊園を造成している。竜の子霊園の南限は関屋川の谷底平野であり、そこには関屋川取水場・町営火葬場(標高 65.0 m)・竜の子会館などがある。竜の子会館の南西 300 m には標高 137.3 m の三室山^{みむろやま}があり、やや針葉樹が多い混交樹林におおわれている。この森林地域一帯は三室山生活環境保全林である。三室山南麓の立田川は柏原市との境界付近を南流し、大正橋(図3)の下流 200 m 地点で大和川に注ぐ小河川で、その河口部には立野終末処理場(標高 36.2~40.1 m)がある。三郷駅(標高 35.6~37.6 m)は町域の最南端に位置しており、駅前広場と植込み、そして都市計画道路三郷川添線⁽¹⁶⁾に面し、立野駐在所・バスターミナル・立体駐車場・立体駐輪場などを備えている。また、駅の北側に隣接する 150 m×250 m の地域と、その西端から北北西方向に 40 m×250 m の範囲は、都市計画のうえでも近隣商業地域に指定されていて、特に商業・業務機能の集中がみられ、最も都市的景観をもった地域である。

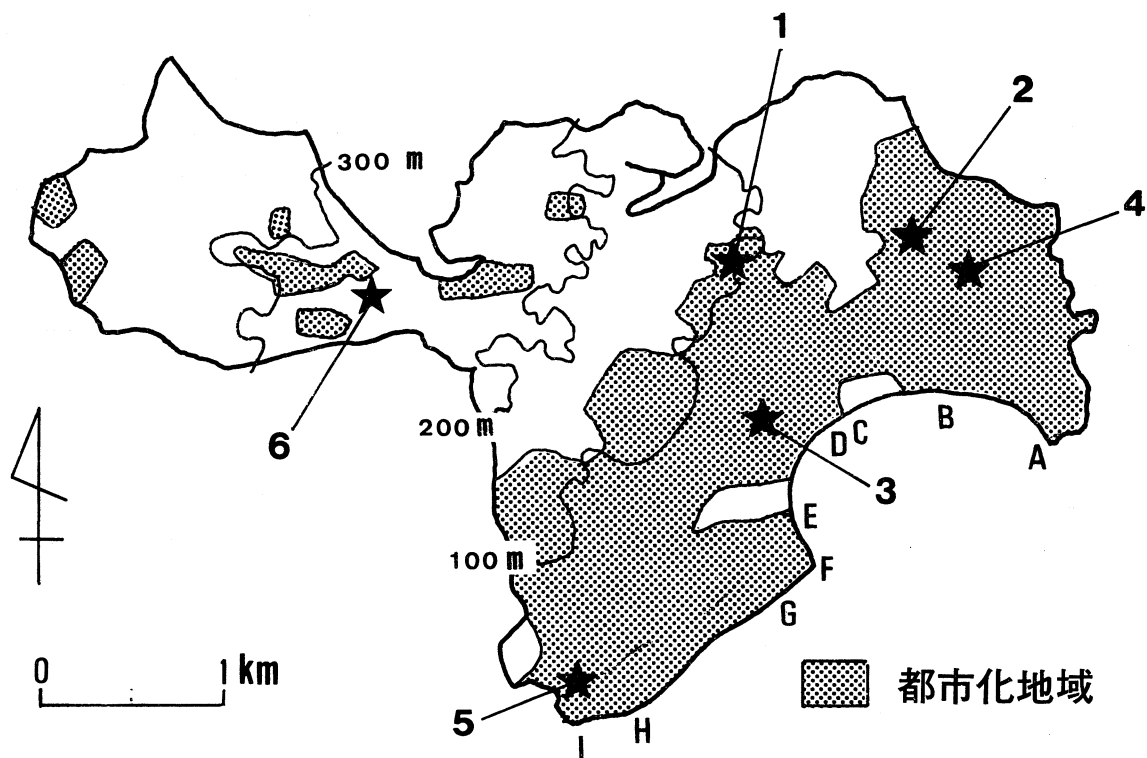
たとえば、第2種大規模小売店舗・病院・歯科医・ホテル・テナントビル(音楽教室・学習塾・洋裁学校・書籍古書店・鍼灸院・薬店・麻雀荘・中華料理店・喫茶店・レンタルビデオ店・社交ダンス場・ジャズダンス場・洋服店・キャッシュコーナーほか入居)、そして不動産仲介業・建設業・飲食店・すし屋・小料理屋・美容院・理容院・ブティック・クリーニング店・ベーカリーショップ・リカーショップほか、多種類の店舗が立地し、マンションや1・2階部分は商業、2・3階以上は住居機能をもつ4・5・6・7階建の中・高層建築物が集積している。また、三郷駅前広場の西端から北北西方向にのびる、都市計画道路信貴山麓線の西側沿線には三郷立野郵便局があり、東側沿線の 600 m 程の間には、1984年度に完成した遊歩道がある。この遊歩道にはアカメガシワ・アキグミ・アキニレほか90種前後の高木が約 360 本、アオキ・アジサイ・アベリアほか18種の低木が約 170 本、そしてウツギ・サザンカほか14種の株物などからなる街路樹が植えられ、濃い茶色のカラーアスファルト舗装の歩道には、10基の水銀灯と6個のベンチ、平均幅 1.7 m の人工河川などがあって、安全性と快適性に配慮した都市的景観の緑道である。この緑道の東側には農住記念会館・西和農協三郷駅前出張所がある。

1972年度に立野農住土地区画整理組合が設立された。この組合の誘致運動によって、1979年度には三郷駅が開業され、翌1980年度には三郷駅前と信貴山下駅(三郷町役場前)間にバス路

(15) 1993年8月現在、完成部分は県道王寺・三郷・斑鳩線から西にのび、信貴山麓線と実盛川の上で交差して、奈良産業大学正門前までの1,100 mである。将来は大学の北を通過し、歩道と街路樹をもつ東西線の主要な都市計画道路となる(三郷町都市計画図, 1993年1月作成)。

(16) 大和川右岸に添って三郷町域南縁を通り、王寺町と柏原市を結ぶ、幅員12 m、歩道と三郷駅付近500 mには街路樹をもった舗装道路。東西方向の幹線的都市計画道路である(三郷町都市計画図, 1993年1月作成)。

図3 三郷町の都市化地域（1993年）



注) 1. 勢野西 5—10—6 2. 美松ヶ丘西 2—2—33 3. 城山台 1—8—12 4. 東信貴ヶ丘 2—6—28
 5. 立野南 3—8—18 6. 旧大字南畑字赤阪 1104
 A. 昭和橋 B. わかくさ橋 C. 明治橋 D. 近鉄生駒線鉄橋 E. 多聞橋
 F. 第2大和川橋梁 G. 神前橋 H. 第3大和川橋梁 I. 大正橋

資料) 国土庁土地鑑定委員会『地価公示』（1993年）および現地調査により作成。

線がついた。バス路線は都市計画道路信貴山麓線を北上し、近接性・利便性を急増した沿線地域は、1980年代に農住団地（面積 65.9 ha, 計画戸数1,821戸）を中心にして急速に住宅開発が進み、都市化が起きた。農住団地は第2種住居専用地域であり、1戸建住宅が卓越するが、立野北3丁目の南信貴サンハイツは、5階建2棟、80戸の標高 70.7 m に位置する中層集合住宅地であり、立野南2丁目の三室山コープタウンは、4階建12棟、232戸の標高 39.6~52.8 m に位置する中層集合住宅地であって、ともに農住団地の中にある。また、三室山南東山麓の立野南3丁目の標高 42.3 m にある、2・3階建の低層集合住宅地の学生アパート・マンションや、立野北3丁目の標高 78.4 m 地点に建つ、湯ノ口の3階建2棟、54室の学生マンションなども、周囲の1戸建住宅群とともに都市的な住宅地景観地域を形成している。国土庁によれば、三郷駅の南西 520 m, 大正橋（図3）北詰の上下水道・都市ガスが完備された場所で、一般住宅とアパート等が混在する住宅地であり、西方 6 m に町道が通じている、第2種住居専用地域の立野南3丁目8番18号（図3）は、最近になって初めて地価公示がなされたが、1 m² 当たりの地価は、1993年5月1日現在144,000円である（1993年度地価公示）。

中部南地域の南東部の立野南1丁目・立野北1・2丁目・勢野西1丁目などの大部分は、谷

田川流域の標高 35.8~68.4 m の水田とその周辺地域、そして標高 37.7~89.0 m の大和川の谷底平野、および段丘崖・中位砂礫台地末端部の準工業地域に立地する住宅地域であり、主に第2次世界大戦以前からの市街地である。一方、勢野北部土地区画整理組合によって、立野北1丁目の県道王寺・三郷・斑鳩線沿線を中心とする、水田地域（標高 35.8~60.3 m）と周辺の混交樹林では、第1次産業的土地利用の改廃が進み、1995年度の完成を目指して、1990年度より開始された面積 37.8 ha、計画戸数836戸の大規模な住宅地開発が進行中である。また、1960年代に開発された面積 10.9 ha、計画戸数188戸の立野北1丁目と、立野南1丁目の公営住宅団地（標高 41.2~54.6 m）、1970年代に立野南1丁目が開発された、面積 1.1 ha、計画戸数35戸の公営住宅団地（標高 48.2 m）ほか、再開発地域を含むこれらの住宅地の3・4階建中層集合住宅と、7・10階建高層集合住宅地などは児童公園・緑地公園（3,190 m²）を備えており、前面の街路樹や歩道をもった幅員 12 m の都市計画道路三郷川添線とも相まって、極めて近代的な住宅地景観を形成している。中部南地域北部の城山台1・3・4丁目の南寄りの地域は、城山台2・5丁目とともに興人株式会社が開発し、1970年代に完成した。面積 35.5 ha、計画戸数 838 戸の1戸建住宅からなり、第1種住居専用地域内の高級イメージをもった住宅地である。なお、城山台2丁目の南端には児童公園と城山台自治会館があるが、その北側の面積 1.8 ha、計画戸数80戸の地域は事業主体が異なり、1981年度に完成した区画である。城山台団地は標高 81.4~153.3 m の地域に広がっており、中位砂礫台地に立地している。なかでも城山台5丁目8番には、1993年10月現在、町域内の新しい住宅地の中では、最高地点（標高 153.3 m）に位置する住宅がある。城山台団地は三郷駅へ 1,500~2,000 m、信貴山下駅へは 200~1,000m の距離にある。しかし、この団地とその周辺地域には城山台1・3・5、自治会館前・万葉荘前・信貴ヶ丘・信貴山下駅前など、7つのバス停留所が設けられていて、町域内では最もバス路線が発達した利便性の高い住宅地域である。

中部南地域の中央の立野北2丁目31番2号には、1991年度に完成した龍田運動公園がある。これは第2種住居専用地域内で、平ノ池の南の中位砂礫台地の標高 82.1~90.1 m に立地しており、面積3.6万 m²余、野球場・日陰棚・テニスコート・児童公園・ベンチほか多くの施設が完備し、クチナシ・クリ・ニセアカシア・ポプラほか70種近い高木とバラ・アメツゲ・ユッカほか15種程の低木が植えられている。龍田運動公園の南側の都市計画道路竜田線と西側の信貴山麓線には街路樹と歩道があり、この公園の周囲は龍田大社の豊かな混交樹林とともに緑の多い都市的景観である。また、中部南地域の北東部の大和川右岸の谷底平野（標高 39.8 m）には、三郷町役場・西和農協三郷支所があり、その西方 200~400 m（標高 47.2~72.1 m）の中位砂礫台地の末端部には、学校給食センター・町立三郷中学校、そして大型温室設備をもつ洋ランセンター（標高 70.2 m）などがあって、やや下ると立野地域し尿処理場が立地している。大和川右岸の標高 28.9~33.4 m 程の河川敷は草地とミニバイク練習場になり、近鉄生駒線鉄橋(図3)の北 100 m 地点には亀ヶ窪排水樋門、さらに南へ 150 m 地点には日養谷川排水樋門

が設置されている。多聞橋（図3）の下流100m、坂根川⁽¹⁷⁾河口付近の草地には上水道第7号井、第2大和川橋梁（図3）北詰の堤防止には上水道第9号井が掘られている。そして、1989年度には神前橋・わかくさ橋（図3）、翌1990年度には多聞橋の架け替えも完成し、近接性・利便性を増すとともに、都市化の進展に伴って大和川親水地域の景観も一変した。

4 東部地域

東部地域は中部北地域の東側に隣接し、今池とスポーツセンター（図2）を結ぶ南北線（図1・B'—C）以東の範囲である。行政区は勢野東・美松ヶ丘西の西端を除く地域と、美松ヶ丘東・東信貴ヶ丘・夕陽ヶ丘・三室などが接続している（図1）。最高地点は北西部の平群町との境界線（標高102.6m）、最低地点は大和川右岸（標高34.9m）である。地形区分はほぼ全域が中位砂礫台地・丘陵地で、南西部は生駒谷南部に属し、信貴川と大和川流域は谷底平野である。そして中位砂礫台地・丘陵地と谷底平野の間に下位砂礫台地と段丘崖が発達している。傾斜区分は北西端の今池付近が勾配4～8°であり、北東方の日向斜面（標高51.9～86.2m）はブドウ園、他は混交樹林となっている。しかし東部地域のほぼ全域が平均勾配0～3°の緩傾斜地である（図2）。東部地域の面積は全町域の約20%、1993年5月1日の人口は全人口の約38%、世帯数は全世帯数の40%程度である（三郷町地区別人口統計表より試算）。すなわち、面積に比較して人口・世帯数の割合が多い。その理由は、全体として住宅立地に適した日向緩傾斜面が卓越し、ほぼ4分の3の地域が第2次世界大戦以前からの市街地か、近年、住宅地化した地域であって、残る4分の1に当たる谷底平野の水田・普通畑の中にも、旧信貴山参道の街村や農村集落が形成されていたことである。

最初の住宅地開発による都市化は、1960年代に近鉄生駒線以東の県道椿井・王寺線沿線の第1種住居専用地域で起きた。それは近接性・利便性の高い鉄道線と県道間の面積22.6ha、計画戸数482戸の東信貴ヶ丘1・2・3丁目（標高48.0～74.7m）である。国土庁によれば、近鉄生駒線勢野北口駅（以下、勢野北口駅）の東北東600mに位置し、東へ450mに町道がある、第1種住居専用地域内で、上下水道と都市ガスが完備していて、一般住宅が多く、その中にはやや老朽化した1戸建住宅も混在する新興住宅地である、東信貴ヶ丘2丁目6番28号（図3）の1m²当たりの地価は、1984年度は91,000円であったが、1993年5月1日には135,000円となり、44,000円（32.6%）の高騰をみた（1984・1993年度地価公示）。県道椿井・王寺線以東の面積18.7ha、計画戸数358戸の夕陽ヶ丘団地は、東信貴ヶ丘団地の次に開発された住宅地であり、続いて三室1・2・3丁目の面積14.1ha、計画戸数428戸、そして南東部の大和川右岸の昭和橋団地と信貴川下流（標高34.9～43.2m）の勢野東1・5・6丁目（面積5.1ha、計画戸数188戸）へと住宅地開発は進展した。なかでも信貴川河口部左岸の勢野東5丁目内にある明治橋団地は、標高34.9mに位置しており、町域内の全住宅地のうちで最も低い地点に立

(17) 1993年8月現在、上・中流域の住宅地化に伴う流量増加を見込み、下流谷口部の急傾斜地では、比較的大規模な地形改変による河川改修工事が進行中である。

地している。1970年代の住宅地化は、歩道のある舗装道路美松ヶ丘線沿線の面積 4.9 ha, 計画戸数 300 戸の美松ヶ丘西 2 丁目, そして面積 14.6 ha, 計画戸数 400 戸の美松ヶ丘西 1 丁目・美松ヶ丘東 1・2 丁目へと波及した。国土庁によれば, 勢野北口駅の北 600 m, 上下水道・都市ガス完備の区画整然とした中規模一般住宅地で, 標準地の地積が 171 m², 北へ 6 m に町道がある第 1 種住居専用地域の美松ヶ丘西 2 丁目 2 番 33 号 (図 3) は都市化が著しく, 1 m² 当たりの地価は 1984 年度に 109,000 円であったが, 1993 年 5 月 1 日には 156,000 円となり, 47,000 円 (30.1%) の高騰をみた (1984・1993 年度地価公示)。

1980 年代になると, 面積 1.3 ha, 計画戸数 56 戸の東信貴ヶ丘 3 丁目, そして面積 5.8 ha, 計画戸数 240 戸の勢野東 4 丁目のように, 部分的に歩道や街路樹をもつ舗装道路に沿って, 1 戸建住宅地や中層集合住宅を含む公営住宅団地が開発され, 新しい住宅都市的景観が形成された。このような都市化現象に伴って, 東部地域東縁の国道 25 号線 (至奈良, 至大阪・大和高田方面) 沿線には, 1978 年度に県立三室病院 (標高 52.1 m) が開院し, 東部地域の医療サービスが充実した。しかし, この地域の中心地である勢野北口駅の周囲は, 1993 年現在, 三郷駅や信貴山下駅の周囲よりも商店が少なく, 近隣商業地域に指定されているが, 商業機能の集積は未発達であり, 都市化が緩慢である。美松ヶ丘し尿処理場は勢野北口駅北東 100 m の近鉄生駒線と, 県道信貴山線の交差点 (標高 54.1 m) にある。明治橋 (図 3) の下流 225 m 地点⁽¹⁸⁾には三軒屋川樋門, 明治橋の上流 80 m 地点には惣持寺樋門, 昭和橋 (図 3) 北詰には神南樋門があり, これら 3 か所の樋門はほぼ標高 35.0 m に位置している。

5 奈良盆地・郡部との比較

奈良盆地とその周辺において, 1950 年頃, 製造業就業者比率が 40% 以上を占めたのは, 大和高田市と三郷町であった (北島, 1985 a)。1955~1981 年の間に住宅地化が大きく進展したのは奈良・生駒の両市であり, 全開発面積の 44% に達するが, ついで吉野郡大淀町, 北葛城郡広陵町・香芝町 (市)・河合町, そして三郷町 (各町の開発面積はそれぞれ 18.9~227.3 ha の範囲内) などが多かった。加えて, 三郷町では 1980 年代以後, それにも増して住宅地化による都市化が急進した (北島, 1993)。わが国の高度成長末期における, 1974 年度の対前年比平均地価公示価格上昇率は, 奈良市 40.7%, 桜井市 45.0%, 平群町 57.5%, 三郷町 53.4%, 磯城郡田原本町 (以下, 田原本町) 40.1% であり, 奈良盆地の北・南東・中部などの地域よりも, 北西部の平群町・三郷町では, 20 年程前に既に急激な地価上昇率を示していた (北島, 1985 b)。

(18) この小河川は金指池 (標高 134.2 m) から 250 m 東流し, 信貴山病院の北から 300 m の間 (勢野西 5 丁目) は護岸の小被覆がなされ, さらに東へ 300 m の間 (勢野西 4 丁目) は大被覆が施されている。そして, 信貴山麓線の手前で, 矢倉谷川と合流し, 近鉄生駒線の下を流れて勢野西 2 丁目付近から南流して, 勢野西 1 丁目の水田 (標高 36.5 m) を通過し大和川に流入するが, 立野北部土地区画整理組合により, 1995 年度完成を目標にして, 1990 年度より中部南地域南東部の立野北 1 丁目に開発が進む, 面積 38.7 ha (標高 36.8~60.3 m) の大規模住宅地開発が完成すれば, この小河川上流の集水域面積が拡大し, 水源涵養の混交樹林・保安林は消失する。その結果, 下流域では流量が急増するものと予想される。

奈良県三郷町の都市化

三郷町とは対照的に地形が低平な田原本町は、全町域が標高 45.0～60.0 m の氾濫平野に立地し、三郷町よりもやや遅れて1965年頃から住宅地化が開始された。新しい住宅地は通勤者を吸引するため、水害に対する安全性よりも近接性・利便性を選好した。しかし1982年の台風10号の際も水田・畑地の埋没、土砂流入、道路被害はあったが、近年の大規模な河川改修や盛土により、住宅地の被害は少なかった（北畠，1986）。今日、三郷駅の平均1日乗降者数は約4,200人、信貴山下駅は5,082人、勢野北口駅は3,380人であり、その殆んどは通勤・通学者である（1993年8月三郷線・王寺駅調べ）。1990年国勢調査によれば、奈良県郡部平均値との比較において、三郷町は15～65歳の生産年齢人口率が高く、第1次産業就業者率の減少と第2次産業就業者率の増加が著しい。そして核家族と単独世帯率が高く、持ち家率は低い。また、民営借家、通勤・通学者世帯と通学者のみの世帯率などは高い。これらのことから三郷町の居住者は住宅・学園都市的特性を持っていることが分かる⁽¹⁹⁾。

III ま と め

三郷町の都市化を景観学的視座から調査・分析し、次のような知見をえた。

(1) 1993年8月現在、完成している三郷町の住宅地の最高地点は標高 153.3 m の城山台5丁目8番にあり、中位砂礫台地に立地している。最低地点は大和川右岸と信貴川河口部左岸の谷底平野の標高 34.9 m に立地する、勢野東5丁目1番の明治橋団地である。この比高 118.4 m の間の傾斜地と多様な地形からなる空間の都市化には、その各々の地域に適合した都市化の方法が肝要であった。たとえば、宅地造成のための地形改変、道路工事に伴う開削地と防災対策、台地縁辺部・段丘崖・沖積錐・崖錐などの急傾斜地の崩落防止対策、谷底平野の小河川の護岸と氾濫・水害対策、農耕地への灌漑、生活用水の取水・排水、ゴミ・し尿処理施設、都市計画道路・歩道・街路樹・遊道歩・接道緑被空間の形成、さらに 1 m² 当たり 150,000 円を越す高地価と過去10年間の40%近い地価上昇率対策などである。

(2) 主な都市施設の垂直的分布をみれば、標高 30～100 m にはバイク練習場・樋門・駅・バスターミナル・終末処理場・霊園・火葬場・貸農園・施設園芸農場・病院・店舗・ホテル・銀行・テナントビル・役場・郵便局・公園・遊歩道、そして公共・福祉・体育・コミュニティ

(19) 三郷町の人口は23,123人（1990年国勢調査）である。年齢別人口割合は奈良県郡部（以下、郡部）の年少人口18.6%、生産年齢人口68.3%、老年人口13.0%であり、三郷町は年少人口16.4%、生産年齢人口72.1%、老年人口11.5%である。1985～1990年間の産業別人口増減率は、郡部が第1次産業22.7%減、第2次産業8.2%増、第3次産業13.8%増であり、三郷町は第1次産業24.6%減、第2次産業12.1%増、第3次産業12.3%増である。1990年の郡部の核家族世帯率は62.4%、三郷町は68.4%であり、郡部の単独世帯率は11.5%、三郷町は16.5%である。郡部の持ち家率は80.2%、三郷町は71.0%であり、民営借家率は郡部12.2%、三郷町20.0%である。郡部の通勤・通学者のみの世帯率は18.7%、三郷町は25.8%である。特に通学者のみの世帯率は郡部が0.3%、三郷町は3.2%である。（総務庁統計局『奈良県の人口』日本統計協会、1993年、68～69、92～93、96～97、104～105、108～109ページ）。

一活動施設などが立地している。標高 100~200 m には水源池・上水道配水場・大学・老人ホーム・看護学校・病院・し尿処理場・清掃センターなどが位置し、標高 200~300 m には揚排水施設・し尿処理場・農業公園など、標高 300~400 m には有料道路・公園墓地などが配置されている。また、水平的分布は近接性・利便性を求めて鉄道線・バス路線を指向し、都市施設の多くは大和川右岸に平行して、幅 1,000~1,500 m 内の地域に位置しており、新しい住宅地開発が展開された地域とほぼ一致している。町域内の 3 つの駅は結節点としての機能を共有するが、特に三郷駅を核とする地域は商業・業務機能が集中し、信貴山下駅を中心とする地域には行政・公共機能の集積が著しい。

(3) 都市化の自然的基盤は、標高 100 m までの勾配 0~8° の日向緩斜面を選好した。しかし全町域の南部地域では住宅地化と大学設置が誘因となり、勾配 9~30° の急傾斜地にも地形改変を伴う都市化が起き、鉄道線から遠い西部地域ではバス路線に依存した飛地的都市化が認められる。また、第 1 次産業的土地利用地域をみれば、水田・普通畑は標高 50~200 m で、勾配 10~13° の日向斜面、ブドウ園は標高 50~200 m で、勾配 20~25° の日向斜面により多く分布し、水田・普通畑と果樹園の分布間には標高差はなく、傾斜勾配差に特色がある。そして標高にはあまり関係なく、傾斜勾配 25~30° の急傾斜地にはタケ林、標高 100 m 以上の地域は混交樹林が卓越している。

本研究にあたって、三郷町役場より貴重な資料を頂き、調査では住民のご協力をえました。植物名は奈良産業大学教授穂積和夫先生（生物学）にご指導を賜りました。深く感謝いたします。

巡検は奈良産業大学経済学部の基礎演習（経済地理学）の学生達と実施しました。楽しい思い出となることを願っています。

文 献

- 生井貞行・原田敏治・松沢 正・山崎憲治「都市化地域における農家経営と農地保全——横浜市鴨居・東本郷地区と小机地区を事例として——」（『地理学評論』第60巻第5号、1986年5月）301~322ページ。
- 北島潤一「奈良盆地の北西部丘陵における住宅地化——1965~1976年——」（『地理学評論』第54巻第8号、1981年8月）437~447ページ。
- 北島潤一「大阪平野の北部丘陵地における住宅地化——1945~1979年——」（『地理学評論』第57巻第10号、1984年10月）703~719ページ。
- 北島潤一「都市の変容と機能」（藤田佳久編『奈良県史 第1巻 地理——地域史・景観——』名著出版、1985a）602~617ページ。
- 北島潤一「宅地開発と地域社会の変容」（藤田佳久編『奈良県史 第1巻 地理——地域史・景観——』名著出版、1985b）703~715ページ。
- 北島潤一「住宅地の開発」（田原本町史編さん委員会編『田原町史 本文編』田原本町役場、1986年）1174~1183ページ。
- 北島潤一「奈良県三郷町の住宅地化」（奈良産業大学『産業と経済』第7巻第5号、1993年3月）61~75ページ。

奈良県三郷町の都市化

- 澤 宗則「広島市安佐南区の近郊農村における混住化の進行」(『地理学評論』第63巻A第10号, 1990年10月) 653~675ページ。
- 西脇保幸「人口増加による土地利用の変化——浦安町地域産業連関表を用いて——」(『地理学評論』第48巻第1号, 1975年1月) 27~42ページ。
- 古田充宏「都市近郊「農村」の混住化に関する社会地理学的研究——旧広島市近郊の一集落を事例として——」(『人文地理』第42巻第6号, 1990年12月) 21~39ページ。
- 森川 洋「わが国における都市化の現状と都市システムの構造変化」(『地理学評論』第64巻A第8号, 1991年8月) 525~548ページ。
- 脇田武光「都市の地価勾配研究の展望とその問題点」(『人文地理』第29巻第2号, 1977年4月) 37~65ページ。
- Harper, S. "The rural-urban intereface in England: a framework of analysis", *Trans. Inst. Brit. Geogr. N. S.*, 12, 1987, pp. 284~302.
- Harper, S. "The British rural community: an overview of perspectives", *Journal of Rural Studies*, 5-2, 1989, pp. 161~184.